



イラスト：横浜市立大学 国際教養学部 2年 美術部所属 李 アラム (Lee Aram)

会長挨拶

横浜市立大学後援会 会長 原口 淳

横浜市立大学後援会会員の皆さまには、日頃より後援会活動へのご理解とご支援を賜り感謝申し上げます。

9月30日(土)に対面及びオンラインのハイブリッド形式で開催した保護者説明会には多数の方々にご参加いただき誠にありがとうございました。新型コロナウイルスが5類への位置付けに変更されて以降、大学での授業もほぼ対面授業に切り替わり、キャンパスにも学生の賑わいが戻った今年度の学内の様子や海外留学、インターンシップ、キャリア支援などの現状をお伝えすることができたものと思っております。

昨年同様、参加された皆さまのご協力による事後アンケートを分析し、今後より一層情報発信を工夫してまいります。

さて、日本は世界の中でも少子高齢化が最も進む国であります。人口減少が続く日本の国内経済規模は縮小し、労働人口も減少します。あらゆる分野で統廃合と再編が進み、集約による質の向上と効率化が求められます。大学も例外ではありません。私立大学の3割は学生数不足で赤字だそうです。大学の数も適正化され、残る大学も社会での存在意義を問われます。日本の大学も世界に目を向け、それぞれが特色を持って、世界から優秀な人材が集まる開かれた大学への変革、進化が求められていると思います。

横浜市立大学では国際教養学部、国際商学部、理学部、データサイエンス学部、医学部が協力し、社会課題の研究や対策の社会実装を産官学連携で進めています。

本学が日本の未来を牽引する大学として発展することを願い、後援会も大学と共に学生支援活動に邁進してまいります。引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



「会長コラム 春夏秋冬」(年4回)をホームページに掲載しています。是非、ご覧ください。



学長挨拶

学長 相原 道子



横浜市立大学後援会の皆さまには、平素より本学へのご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。皆さまからの学修活動や課外活動への支援、海外留学や学会参加への支援など、幅広いご支援により本学は支えられています。改めて感謝申し上げます。さらに、新型コロナウイルス対策基金へのご協力もありがとうございました。既に募集は終了しましたが、学内の感染対策の強化やオンライン授業のための環境整備などに活用させていただき、学生・教職員ともに深く感謝しております。

社会はポストコロナ時代に入り、本学も今年度はオンライン授業の利点を取り入れつつ、原則対面授業としました。3年間の人との接触の制限も全て解除し、外国人留学生も戻るなど、昼休みには学生たちの明るい笑顔がキャンパスに溢れています。浜大祭(金沢八景キャンパス)やYokohama Medical Festival2023(福浦キャンパス)もコロナ禍前と同様に制約を設けることなく開催することができました。

さて、本学では今年度第4期中期計画(令和5~10年度)が始まりました。本学の教育が目指すのは、「総合知」を活かし、豊かな教養、高い倫理観及びグローバルな視点を備え、「専門性」と「データ思考」により新たな価値を創造する人材の育成です。加えて「研究の横浜市立大学」の推進のために、全学をあげて研究力の強化に努めています。得られた研究成果は、オープンイノベーションによる社会への還元を目指します。

また、2028年に迎える創立100周年に向けて、4つの記念事業プロジェクトを実施するための寄附活動を行っています。その一つである学生生活・環境改善プロジェクトでは、キャンパス内の学生の交流のためのスペースの拡充や運動部の部室の整備などを目指しています。本学のホームページの100周年記念事業サイトをご確認いただき、ご協力を賜れば幸いです。

今後、教育・研究・医療の各分野でリードしていくことを使命とし、社会の発展に寄与するとともに、市民の誇りとなる大学づくりを進めてまいります。引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

後援会副会長挨拶

国際商学部長 大澤 正俊



横浜市立大学後援会の皆さまにおかれましては、日頃より本学の教育・研究・地域貢献・診療にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

既に本会の趣旨につきましてはご理解を頂いているとは思いますが、今一度、会則のご確認をお願いします。なお、会則は、横浜市立大学後援会ホームページ(<https://www-user.yokohama-cu.ac.jp/kouenkai/>)、「後援会について」内または本誌(裏表紙に掲載)でご確認いただけます。

さて、本年度は、医学部医学科90名(内、女子34名)、医学部看護学科100名(同98名)、データサイエンス学部63名(同16名)そして国際総合科学部の再編に伴い誕生し、本年度で5年目を迎えた3学部、国際教養学部300名(同225名)、国際商学部296名(同154名)、理学部132名(同68名)の新入生を迎えスタートしました。

9月30日(土)には横浜市立大学後援会主催の保護者説明会を金沢八景キャンパスとオンラインのハイブリッド形式で開催し、対面で130名、オンラインでも多数の皆さま(200以上のオンライン接続がありました)にご参加いただきました。この保護者説明会を通じ、本学の教育、キャリア支援、留学プログラムなどについてご理解を深めていただけたならば幸いです。

2028年(令和10年)に創立100周年を迎える横浜市立大学は、社会課題の解決にチャレンジし社会に貢献する人材を育成すべく、これからも新しい教育・研究の手法を取り入れてまいります。会員の皆さまから学生に更なる力強いエールを送っていただけますと幸いです。

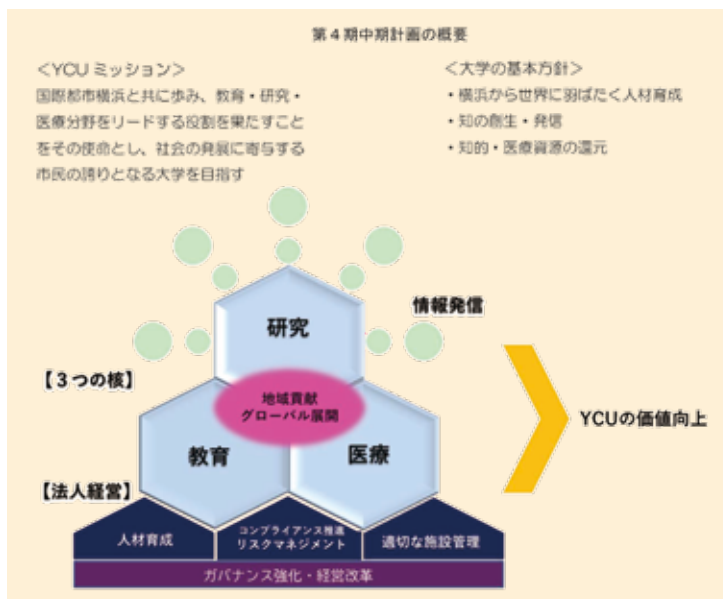
第4期中期計画について

第4期中期計画（計画期間：令和5～10年度）では、最終年度（令和10年度）の「横浜市立大学創立100周年」とその次の100年につながる未来を見据えて、これまで3期18年間で積み上げてきた実績を基に、「教育・研究・医療」を通じて大学の存在意義を高め、「研究の横浜市立大学」として、横浜市民はもとより広く国際社会に貢献する大学病院を目指しています。

しかしながら、本学が目指す姿を実現するためには、光熱水費や物価の上昇などにより法人の運営が厳しい状況にある中、これまで以上に外部資金や寄附金の獲得などに積極的に取り組み、自律的かつ持続可能な法人経営の実現に向けた改革の実行が不可欠になります。

そのうえで、「国際都市横浜と共に歩み、教育・研究・医療分野をリードする役割を果たすことをその使命とし、社会の発展に寄与する市民の誇りとなる大学を目指す」というYCUミッションのもと、国際都市横浜にある「知の拠点」として、自治体・産業界などと連携、協力しながら、今後も社会課題の解決と持続的な発展に貢献していきたいと考えています。

また、本学の3つの核である「教育・研究・医療」については、豊かな教養と高い倫理観により新たな価値を創造する人材の育成、オープンイノベーションによる研究成果の社会実装、多様な知の結集による市民のWELL-BEING実現への貢献、地域医療最後の砦としての医療提供などの役割を担っていきます。



<各分野の基本的な考え方>

教育

問題発見・課題解決力の涵養と新たな価値を創造する人材の育成と学生支援

- 本学の「総合知」を活かし、豊かな教養、高い倫理観およびグローバルな視点を備え、専門性と「データ思考」により新たな価値を創造できるイノベティブな人材を育成
- 大学院教育を重視するとともに、社会人の学び直しの機会を提供
- 学生の主体的な学びと成長をサポートする学生支援

研究

基礎的研究力および高い研究倫理を土台とした戦略的かつ先進的な研究および学際的研究の推進

- 社会課題および地域課題の解決を目指した戦略的かつ先進的な研究および学際的研究を推進
- 産学連携、オープンイノベーションによる研究成果の社会実装を推進
- 質の高い臨床研究や治験を地域とともに推進し、先進医療を提供
- 独創的な世界水準の研究を推進し、「研究の横浜市立大学」を発信

医療

高度で安全な医療を提供し、地域医療の最後の砦として、市民に信頼される大学病院

- 市内唯一の特定機能病院・高度救命救急センターとして、政策的医療・高度先進医療および救急・災害医療を提供
- 明日を担う質の高い医療人材の育成と活用
- 地域の医療機関との機能分化・連携を推進し、引き続き市民の健康保持増進に貢献

法人経営

社会の変化に柔軟に対応できる持続可能な法人経営の確立

- 理事長・学長のリーダーシップのもと、ガバナンスをより一層強化し、不断の経営改革を実行
- 創立100周年に向けて、教職員・学生・卒業生が一体となってYCUの価値を向上していくとともに、戦略的な広報により法人の発信力を強化

地域貢献

横浜市立大学の特長を活かした、社会とつながる地域貢献の推進

- 横浜市をはじめとする自治体や産業界等との連携を深め、教育・研究・医療を通じて、研究成果の社会実装や知的・医療資源の還元を推進
- 地域社会との協働によりイノベーションを創出し、地域課題の解決および地域経済の発展に寄与し、さらには社会全体に貢献

グローバル展開

“量から質へ”国際社会と連動したグローバル展開

- 質の高い多様な留学プログラムの提供や、オンライン交流の充実など、グローバルな視野が培われる交流や体験の機会の提供をより一層進め、国際的にリーダーシップを発揮できる人材を育成
- 優秀な外国人留学生の獲得および高度外国人材の輩出に向けて、キャンパスの国際化を推進し、教育・研究の充実や質の高いキャリア教育プログラムの提供などを世界に発信



保護者説明会・総会報告

令和5年度後援会主催保護者説明会の開催報告について

保護者説明会は、在学生の生活や大学の取り組みを紹介することで、学生が安心して学べる大学であるという理解や信頼を深めることを目的に、平成24年度から開催しています。令和5年度は、昨年度に引き続き、参加者が対面とオンラインを選択できるハイブリッド形式で開催し、多くの方々にご参加いただきました。

また、事前申込制の個別相談会として、各学部教員への相談ブースに加え、ご関心の高い内容別に「カリキュラム」、「留学」、「就職支援」、「経済支援」について、所管する事務職員への相談ブースも設置し、対面形式で開催しました。

実施後のアンケートによる満足度（「大変満足」「満足」のいずれかを回答いただいた数の割合）は、「説明会全体の満足度」が82.6%、「個別相談会の満足度」が87.5%と、非常に高い評価をいただきました。当日はご参加・ご協力いただき、誠にありがとうございました。



開催概要

- (1) 日程：2023年9月30日（土） 13時から16時
- (2) 会場：横浜市立大学金沢八景キャンパス シーガルセンター（オンラインはZoomのウェビナー機能を使用）
- (3) プログラム

時間	内容	場所	開催形式
13:00～13:05	主催者（後援会会長）挨拶	シーガルセンター 3階 シーガルホール	講演会形式 対面 または オンライン (Zoom)
13:05～13:15	学長挨拶		
13:15～13:35	基調講演 国際商学部 吉永 崇史 教授（キャリア支援センター長） 「With コロナ時代の対面授業とキャリア支援」		
13:35～13:55	海外研修支援事業について ①プログラムの概要および実施状況 ②留学参加学生報告		
13:55～14:15	キャリア支援プログラムについて ①プログラムの概要説明および状況 ②インターンシップ参加学生報告		
14:15～14:25	事務連絡、成績確認の方法について	シーガルセンター 2階 学生会議室	面談形式 対面
14:30～16:00	個別相談（事前申込制） ※相談時間は1名（1組）15分		

参加人数

- 講演 対面参加 130名（96組）、オンライン参加 206組 ● 個別相談 21組

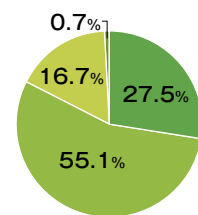
アンケート結果(回答数138名)

学部・研究科名	人数
国際教養学部	61
国際商学部	40
理学部	16
データサイエンス学部	13
医学部	6
生命ナノシステム科学研究科	1
生命医科学研究科	1

学年	人数
1年	81
2年	36
3年	18
4年	3

保護者説明会全体の満足度について

● 大変満足	38	27.5%
● 満足	76	55.1%
● 普通	23	16.7%
● どちらかといえば不満	1	0.7%
● 不満	0	0%



※説明会の概要や、配布資料の一部、詳細なアンケート結果は、大学ホームページをご覧ください。https://www.yokohama-cu.ac.jp/parents/setumeikai_2023.html



令和5年度定時総会（書面決議）の結果について

令和5年度横浜市立大学後援会定時総会は、令和4年度に引き続き多くの会員の皆さまからご意見をいただくため、書面による決議とすることにいたしました。

2023年8月10日締切りで会員3,928名のうち373名（回収率9%）から回答票がご提出され、全議案について承認されましたのでご報告いたします。また、今回の議決に際し、会員の皆さまから後援会に対するご意見をいただきました。誠にありがとうございました。書面決議結果およびご意見への回答を含めた今後の取り組みにつきましては、ホームページに掲載のNEWS LETTER 2023 一定時総会（書面決議）報告一でご報告させていただいておりますのでご覧ください。



学術情報センター

金沢八景キャンパス学術情報センターでは、学修・研究に関するさまざまな情報やサービスを提供し、学生の多様な学修スタイルをサポートしています。

<所蔵資料>

図書：約 71 万冊

雑誌：約 1万4千タイトル

電子ジャーナル：約 2万1千タイトル

<ご利用時間>

通常開館	平日（授業期）	9:00 ~ 21:00
土日開館	土曜・日曜（日は試験期のみ）	9:00 ~ 17:00
短縮開館	休業中の平日など	9:00 ~ 17:00
休館日	祝日、年末年始ほか	-

昨年度に引き続き、有志の学生による「学生選書」を行い、学生の希望をより反映させた図書をご寄贈いただきました。



対面授業の再開により、図書館に来館する学生がコロナ禍以前に戻りつつある中、オンラインツールを活用した学びも継続しており、学術情報センターでは学生の学修・研究を対面とオンラインの両面からサポートしています。資料相談（レファレンス）は、対面の窓口のほか、LINE でも気軽に利用できる環境を提供しています。また、資料は本棚に並ぶ紙の資料のほか電子ブックも整備し、場所を選ばない学修・研究支援を行っています。

◇後援会からの図書寄贈：後援会から毎年多くのご支援をいただき、学修・研究環境を一層充実させています。語学学修などに役立つ資料は電子ブックで整備することができたほか、ご支援いただいた学生の日常生活を豊かにする小説や実用書なども多くが頻繁に利用されており、学生生活に大いに役立っています。

◇学術情報センター（図書館）募金：学術資料の充実によって、最先端の研究と将来性に満ちた学生を育成し、継続的な社会への還元が可能となるよう、皆さま方からご支援を募っております。お陰様で、令和4年6月から令和5年10月末までの間に、約1,730万円のご寄附が寄せられました。ご寄附いただいた皆さま方に厚く御礼申し上げます。



ゼミ活動

国際教養学部 渡會ゼミ 3年生一同

国際教養学部の渡會ゼミ（社会理論演習）では、日常にある疑問や違和感を持ち寄り、文献やデータ収集、フィールドワークなどを通じて深掘りしています。昨年度のゼミでは、「遊び」、「愛」、「余暇」、「メディアの未来」などをテーマとして扱いました。フラットな対話から新たな知見を得られるのが特徴です。ゼミ中の話し合いはディベートではなく、ダイアログ。一人ひとりが気軽に発言できる環境でゼミを行っています。

毎年七夕の季節には、現役のゼミ生と卒業生が集うイベントを企画し、交流の機会をつくっています。一緒に学外の展示会を訪れたり、街歩きをしたりといったアイスブレイクを通して親交を深め、食事会をします。年齢に関わらずくくばらんに会話ができるイベントの一つです。同じ社会学を学んで、先に社会に出た先輩方と意見交換をすることで、普段とは違う視点から物事を考えることができます。今年の七夕会では、ニュースパークで開催されていた展示会「多様性 メディアが変えたもの メディアを変えたもの」に足を運びました。

展示内容を見ていく中で、記者一人ひとりが熱量をもって記事を書いていること、声を上げられない人の代わりにメディアが社会に対して声を上げていること、それでもなお変わっていない部分もあるということ…たくさんのことを考えまし



た。「多様性」という今社会を揺るがす言葉の真髓に触れる貴重な経験となりました。またOB・OGの方々と一緒に展示を回することで、一人で訪問する以上にいろいろな視点で考えることができました。今後も、身近な問題を丁寧に拾い上げ、仲間と対話する機会を通して柔軟な姿勢で現代社会を研究していきたいと思ひます。後援会の皆さまの温かいご支援に感謝申し上げます。

ゼミ活動

理学部 4年 小橋 瑞香

舞岡キャンパスにある丸山研究室では、植物が種子を作る上で必要な受精における細胞の現象と分子メカニズムについて、ライブイメージングなどを用いて解析を行っています。

被子植物の花粉は受粉すると花粉管を胚珠まで伸ばし、到達すると2つの精細胞を放出します。各精細胞は卵細胞、中央細胞と受精します。これを重複受精と言います。2つの精細胞の膜の外側は、内部形質膜と呼ばれる膜によって一包みに覆われています。内部形質膜は受精前に素早く崩壊するため、この現象は重複受精の成功に重要であると考えられます。しかし、内部形質膜に局在する因子はほとんど知られておらず、素早い崩壊のメカニズムについては未解明です。



シロイヌナズナの内部形質膜

そこで、私は、シロイヌナズナを用いた内部形質膜の機能的な局在因子の同定と素早い崩壊のメカニズムの解明に向けて、内部形質膜の大量単離方法を確立する研究を行っています。当研究室の研究により明らかになった知見や先行研究を基に条件検討を重ねた結果、通常は素早く崩壊してしまう内部形質膜を、精細胞を包んだ状態で、花粉粒から安定的に取り出すことが可能になりました。



招待講演(RDP external seminar)が行われたリオン高等師範学校

先日、当研究室の丸山准教授と杉博士のリヨン高等師範学校での招待講演に同行し、現地の研究者と交流する機会に恵まれました。様々な分野の研究について教えていただいたり、研究に対するアドバイスをいただいたりと有意義な時間を過ごしました。また挑戦的両性花原理若手の会では、全国から参加した学生の熱心さや探究心に刺激を受けました。今後も内部形質膜の素早い崩壊のメカニズムを解明するべく研究活動に熱心に取り組んでまいります。

後援会の皆さまには、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

国内学会発表

データサイエンス研究科 データサイエンス専攻 博士前期課程 2年 植村 直紀

2022年11月26日から27日に富山市で開催された日本計算機統計学会第36回シンポジウムに参加し、「再発生存時間データに対するCox回帰型モデルの比較」という演題で口頭発表を行いました。本学会は統計学および計算機システムの研究を軸に、幅広い領域の研究者や学生が集まります。また本学会では若手の研究を奨励しており、学外の意欲的な学生と交流を持つことができる貴重な場でもあります。

私は医療、医学、公衆衛生領域に統計学を応用する生物統計学という学問領域を研究しています。Cox回帰モデルは生物統計学の中でも一般的な手法の一つですが、感染症領域などでみられる再発事象（同一の患者が疾患に複数回に罹患する状況）を解析する方法としては十分に整理されておらず、統計的な知見が不足しているという課題がありました。そこで私は、再発事象を解析するためのCox回帰モデルをより一般的に整理し、また実際の臨床現場から得られるデータを想定してシミュレーションを行うことで、手法の統計的な性能を評価しました。発表ではこうした理論的な研究内容に加え、実際の臨床データを解析した応用的な結果を示すこともできました。また発表後は生物統計家として第一線で活躍されている先生から助言をいただき、たいへん有意義な経験を積むことができました。

現在日本では生物統計学の専門家が不足しているため、医薬品開発や臨床研究の遅滞が懸念されています。本学は生物統計学の発展に資する人材を輩出し、よりよい社会の実現に貢献する貴重な大学の一つだと考えています。後援会の皆さまには、今回貴重な経験をさせていただいたことに深く御礼申し上げますとともに、今後も温かいご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

グローバルな視野を持ち、世界で活躍する人材を育てるため、本学では海外でのさまざまな学びや実践の場を提供しています。後援会からのご支援を受け、海外でさまざまな体験を重ね、多くのことを学んだ学生たちからの体験談をお届けします。

令和5年度も学生からの多種多様なニーズに応えるべく、長庚大学(台湾)、フロリダ国際大学(アメリカ)などの大学と交換留学を中心に新たなプログラムを増やしました。

(ご参考) https://www.yokohama-cu.ac.jp/ytog/global/overseas_study/ycuprograms.html



交換留学プログラム



大学の留学生センター主催の、留学プログラム修了セレモニーにて

サンディエゴ州立大学

国際教養学部 4年 池内 千晶

私は高校1年生の時にアメリカに1年間留学した経験があり、「迷ったらやる」をモットーに生きていた当時の自分に負けたくないという意気込みで今回の留学に出発しました。しかし留学開始直後は、現地大学の課題の量に圧倒されたり、就職活動に追われたり、図書館に籠ることも多く、目の前のことで精一杯でした。高校の時のように自由に挑戦できないことに焦りを感じていましたが、「当時とは留学目的も自分のライフステージも違う」ことに気づき、別のベクトルで頑張ろうという考えになりました。以降

は丁寧に目の前の人と係わったり、1人で新たな場に出てみたり、授業で発言をしたりと、より質の高い毎日を過ごせるように意識し、さまざまなバックグラウンドを持つ友達ができました。自分と相手の当たり前は違うということも多くあり、それぞれの友達との係わりから新しい気づきがありました。一番大きな学びは『自信』です。私が留学で出会った人たちは人と比較するのではなく自分の経験から自信を得ている人が多いように感じ、他人の良いところは素直に褒め合っていました。私も過去の経験を振り返り、自分の中で完結した自信を持つことができている。

また、緊張することを楽しいと感じるようになりました。緊張しているときは新しいことに挑戦しているときであり、自分が成長している証拠だと気づきました。自分から主体的にコンフォートゾーンを抜け出すことで成長できたと感じます。

横浜市立大学後援会による助成のおかげで、たいへん充実した1年間を過ごすことができました。感謝申し上げます。



キャンパス内に移動式遊園地が設置されるほどイベントの多い大学

セメスター留学プログラム

ソノマ州立大学

国際教養学部 4年 木野村 みな

アメリカ合衆国カリフォルニア州ソノマ郡に位置するソノマ州立大学で約10カ月間学んできました。アメリカ最大級の都市の一つであるサンフランシスコから車で1時間ほど北進した先にある大学です。大学周辺はワインの有名な産地となっており、ワイン畑や牧場といった穏やかな景色に囲まれた地での生活でした。私は、留学の目的として、アメリカ文化に触れること、アメリカの社会システムと多文化共生の関連と実態について学ぶことの2点を重視していました。歴史的にも移民が多く、経済的な成功を含め、文化や商業などさまざまな面で独自の発展を成し遂げてきたサンフランシスコの郊外にあるソノマ州立大学は私の学びを深めるのに最適な場所でした。授業では、アメリカ国内で



キャンパス内にあるグリーンミュージックセンター



マイノリティとされている中南米からの移民やアジアからの移民が直面している問題に関し、歴史的に振り返りながら、人種差別のきっかけを生み出す社会制度の形成や現在も残る影響について学びました。これまでの人生で得た外からアメリカを見る視点ではなく、内からの視点は新鮮なものであり、クラスメイトの発言に力強さと現実に対する厳しさを感じられました。渡米前に描いていたアメリカに対する多文化共生社会としての理想の姿と現実との差を痛感しました。これまでの自分の考えを見直し、アップデートさせる学びの機会を得るにあたり、その機会を存分に生かせるよう、支援をして頂いた後援会の皆さまには心より感謝しております。ありがとうございました。

第2クォータープログラム

ニューヨーク州立大学ストニーブルック校

国際商学部 2年 周藤 花佳

今年の夏は私にとって忘れられないものでした。第2クォータープログラムのサマースクールに参加し、ニューヨーク州立大学ストニーブルック校で3週間滞在したことが、私の中でこれまでの殻を破り自分自身を大きく成長させた経験だったからだと思います。週3回の授業や講師によるスペシャルレクチャーでアメリカの現代的な文化、生活を学び、現地の学生にニューヨーク州のさまざまな場所に連れて行ってもらい、世界中から集まった同世代の友人とコミュニケーションを図り互いの意見や文化、言語を交流し合う日々を過ごしました。ニューヨークという都市で出会う人々は、国籍やバックグラウンドが豊かであると同時に複雑です。ウクライナから避難してきた友人や韓国の友人など、今でもつながりをもって連絡を取り合える関係性が続いており、日頃のニュースがより身近になった感覚があります。



初日のオリエンテーションで声をかけてくれた韓国の友達



Empire State Buildingからの景色

渡航を通じての最大の気付きは、これまで無意識のうちに自分自身の活動を制限していたということでした。大学内ではディスカッションやアクティビティなど常に積極的な姿勢が求められ、周囲の友人の行動力にも感化されました。自ら行動することの具体的な意味を、身をもって学びました。

コロナ禍で叶わなかった留学の夢や、このような若さで叶うと思ってもいなかった憧れの場所で多くの体験ができたことは後援会の皆さまからの支援なくしては実現しなかったものです。たいへん感謝しています。

アカデミックコンソーシアム

国際商学部 3年 佐々木 峻真



2023年8月23日から9月1日の10日間、Sustainable Urban Development Program (SUDP) の授業を通してタイで海外フィールドワークを行いました。SUDPでは、タイの都市化による気候や地球環境にもたらす影響についての理解を深めました。私は国際商学部

に所属しており環境問題は専門外のため、聞き馴れない単語もありましたが大概是理解でき、非常に学びの多い10日間となりました。

SUDPの前半は授業やフィールドワークなどテーマに関するインプットがメインでした。授業では、急速な都市化の中で区画整備がなされていない住宅地が多く存在していることやゴミなどが整理されておらず衛生環境が悪くなっているタイの現状を学びました。また、これらの現状がコロナなどのパンデミックや気候変動による洪水時に新たな課題をもたらしているなど、都市化推進過程の問題点についてさまざまな視点を得ました。さらに、実際にフィールドワークに行くことでタイの実情を直視することができ、机上の空論ではない地に足のついた学びを得ることができました。

SUDPの後半は、前半での学びをもとにグループに分かれての最終発表とその準備でした。グループ内の日本人は私1人であり、当初は言語の壁からなかなか自分の意見が言えず歯痒い思いをしました。しかし、積極的に発言を重ねたことでメンバー間の親睦は急速に深まり、自分の意見も自由に発言できるようになりました。各国のメンバーが自由に討論を重ねた結果、最終的には「タイのコミュニティではさまざまなバックグラウンドを持つ人が自由に集まり社会的な活動を実施できる空間が不足している」という結論に達し、それを問題提起として発表し、見事にグループプレゼンテーションでは第1位に選ばれました。

今回のフィールドワークを通して、タイの都市化に伴う諸課題への理解が深まったとともに異なるバックグラウンドを持つメンバーで構成されるチームの中で協働をするという貴重な体験をすることができました。このような貴重な機会を得ることができたことに本当に感謝しております。



* アカデミックコンソーシアム：横浜市立大学が事務局を務める都市の課題解決を目的とした大学間のネットワーク。マレーシア、タイ、フィリピン、ベトナム、インドネシアの大学が参加。SUDPは、アカデミックコンソーシアムの活動の一環として実施している都市課題をテーマとした国際学生共修プログラム。

伊藤雅俊奨学生・成績優秀者特待生表彰式



伊藤雅俊奨学金制度は、故伊藤雅俊氏（本学卒業生 / 株式会社セブン&アイ・ホールディングス名誉会長）より寄贈された株式に係る配当金を原資に創設されました。寄附者の意向に沿い、国際商学部の特に優秀な学生に奨学金を給付しています。

また、成績優秀者特待生制度は、学業・人物ともに優秀な学部生を表彰し、学業への一層の努力を奨励するとともに、学生の学修意欲の向上を期待して創設した制度です。

後援会からは式典の生花をお贈りしています。

令和5年度の表彰式（9月20日）では、表彰状と目録の授与のほか、代表学生が学修成果の発表を行いました。当日は、ご家族や指導教員等80名を超える方々が参列し、その栄誉を讃えました。また、表彰とあわせ、伊藤雅俊奨学金制度と、寄附者であり今年3月にご逝去された伊藤雅俊氏のご功績について紹介しました。



【代表学生コメントはこちらをご参照ください】

https://www.yokohama-cu.ac.jp/campuslife/StudentsYear/2023tokutaisei_houkoku.html

YCU Best Student Award・YCU Student Award 表彰式

学生活動の活性化を目的として、学術研究、スポーツ・文化、地域貢献・社会活動などの分野において活躍し、本学の名誉や学内の士気を高めた学生や学生団体を表彰しています。後援会からは、受賞者に副賞をお渡ししています。

2022年は応募総数28件の中から分野別の厳正な審査の結果、YCU Best Student Award 2件、YCU Student Award 6件が決定し、表彰式を2023年3月16日（木）に金沢八景キャンパスシーガルホールにて執り行いました。

YCU Best Student Award (写真上)

【学術研究分野】 菊地 杏美香さん（生命医科学研究科 生命医科学専攻 博士前期課程1年）

筆頭著者論文が英学術総合誌「Nature Communications」に掲載され、その論文がEditors' Highlightsに選出

【課外活動・社会活動分野】 学生団体TEHs（テフズ）の皆さん

サスシープロジェクトの一環として、本学生協食堂にてサステナブル・シーフードを学食に導入



YCU Student Award (写真下)

【学術研究分野】

○小林 一雄さん（医学研究科 医科学専攻 博士課程3年）

糖尿病治療薬SGLT2阻害薬の血圧低下効果が腎保護と関連していることを初めて明らかにし、学術誌「Diabetes Research and Clinical Practice」に筆頭著者として研究成果を発表

○谷垣 俊樹さん（医学部4年）

リサーチクラークシップでの研究成果が心臓MRI分野のトップジャーナル「Journal of Cardiovascular Magnetic Resonance」に掲載

○阿部 満理奈さん（生命ナノシステム科学研究科 物質システム科学専攻 博士後期課程3年）

タンパク質結晶の微小なねじれの観測に世界で初めて成功し、国際学術誌「PNAS」に筆頭著者として原著論文が掲載

【課外活動・社会活動分野】

○外園 清香さん（理学部3年）

Japan MLC 2022（メモリスポーツ日本大会）で3位に入賞

○学生団体one by ONEの皆さん

入院中の患児へのオンライン学習支援やご家族も含めたイベントを実施

○浜大祭実行委員会の皆さん

3年ぶりに浜大祭を新しい形で再興



【受賞者の功績および受賞コメントはこちらをご参照ください】

<https://www.yokohama-cu.ac.jp/campuslife/StudentsYear/studentaward2022houkoku.html>



COVID-19関連等特別支援事業

第 I 講堂換気設備設置

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、第 I 講堂に新たに換気設備（全熱交換器）を設置しました。一般的な換気扇では外気をそのまま取り入れるため、冷暖房の効果が下がってしまいますが、今回設置した換気設備は、温度を調整しながらの効率的換気が可能で、省エネ効果が見込めます。

厚生労働省の5類感染症移行後の「基本的感染対策の考え方」において、新型コロナウイルス感染症の特徴を踏まえた基本的感染対策として換気は引き続き有効とされています。



いちょうの館屋外テラスに無線アクセスポイントを設置

学生生活アンケートにおいて、屋外で学内無線 LAN (YCUWL) につながりにくいという意見が多数ありました。後援会の支援をいただき、学生の居場所の一つとして整備されているいちょうの館屋外テラスにアクセスポイントを設置しました。これにより、テラスでもノート PC やスマートフォンを教室と同じように利用できるようになりました。



YCU TOPICS コロナ5類移行後の学生生活支援について（大学の取り組み）

～大学として実施している学生支援の取り組みの一部をご紹介します～

2023年5月の新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行により、これまで制限されていた活動が学内・学外を通じて活発化してきています。

大学も感染拡大防止対策の1つとして、コロナ禍では施設の利用制限を行っていましたが、学生の活動を促進するため、制限を撤廃し、施設利用を再開しました。

スチューデントオフィスの施設利用の再開

スチューデントオフィスは、学生数人によるグループワークや、打合せなどを行うための小スペースです。こちらは5月8日以降、学生向けの貸出を再開しています。

生活協同組合食堂ホールの開放時間を延長

学生がくつろぎ、談話するスペースが不足しているという要望に応えるため、金沢八景キャンパスの食堂ホールを営業時間（10時～14時）以降も開放し、平日は21時まで開放しています。



また、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後も、物価上昇などに伴い生活の苦しい学生に対して、食料品や日用品の配布を行う「食の支援」を実施しています。

自宅外通学で、生活費を切り詰めなければならないような学生が安心して本学で学べるように大学としても支援をしています。

【これまでの食の支援はこちらをご参照ください】

<https://www.yokohama-cu.ac.jp/volunteer/shokushien/archive.html>



第73回 浜大祭



浜大祭実行委員会委員長 森上 隆也

第73回浜大祭は、11月4日(土)・11月5日(日)に金沢八景キャンパスにて行われました。今年度はコロナ禍以来となる学生による飲食出展の解禁を行い、ノウハウが少ないながらも無事に実施することができました。ご協力くださったすべての皆さまに感謝申し上げます。

今回の浜大祭のテーマは「熱響」。一人ひとりの情熱やひたむきさが周囲に伝播する大学祭を目指しました。日頃の活動の成果が誰かに伝わり、その熱を受け取った誰かがまた誰かにその熱を伝える。

そういった熱の伝播の連鎖が浜大祭という場で起きてほしいと思い、工夫を凝らした企画を考えました。大学全体を巻き込んだクイズ大会企画や身近な二項対立に目を向けたディベート企画、また、本校舎の廊下を音と光で装飾して非日常的な場所にするPOP STREET企画など新たな企画により盛り上げることができました。

今回生まれた熱がまたほかの誰かにつながるように、今後とも浜大祭を応援していただけると幸いです。

第42回 東京都立大学・横浜市立大学総合定期戦 第72回 関東甲信越大学体育大会

運動部連合会委員長 吉田 旭希

運動部連合会は、各運動部より1名ずつ委員を選出し構成され、横浜市立大学の運動部全36団体を統べる組織です。今年度は都立大戦、関東甲信越大学体育大会の運営などさまざまなイベントの運営を行いました。

都立大戦は4年ぶりに市大をホームとして開催されました。惜しくも敗れてしまいましたが、市大の体育館に並ぶ両大学の部員を見て、何か込み上げてくるものがありました。

関東甲信越大学体育大会は、4年に一度の当番運営があり、サッカー、硬式野球、水泳、バスケ、柔道、体操の6競技において運営を行いました。また、大会前には結団式を執り行い、相原学長を初めとする多くの方に参加していただき、激励のお言葉をいただきました。その結果、3位に入賞するなど多くの運動部が活躍しました。

このように、今年度は運動部の活躍が目覚ましく、運動部に活気が戻りつつありたいへん嬉しく思います。新型コロナウイルス感染症による行動制限の中でも、運動部が存続し活動を続けることが可能だったことは後援会の皆さまのご支援のおかげだと実感しております。今後とも運動部、運動部連合会へのご支援をよろしくお願いいたします。



関東甲信越大学体育大会の結団式

クラブ活動

■海外遠征 (チアリーディング部 YCU Elite)

チアリーディング部 三富 愛結



このたび、後援会の皆さまのご支援の下、4月にアメリカ・フロリダ州オーランドにて開催された「ICU世界チアリーディング選手権大会」に、チアリーディング部 YCU Elite主将の私が出場してまいりました。おかげさまで、世界第3位という成績をいただくことができました。

「ICU世界チアリーディング選手権大会」は、世界各国から代表選手が集まる世界最大規模のチアリーディング大会です。私は、約半年間の個人トライアウトを経て、22人の日本代表メンバーのうちの1人に選出されました。代表練習では他のクラブチーム出身のメンバーから、技術やメンタルなどについても沢山のことを学ぶことができました。また、チアリーディングの本場アメリカでレベルの高い演技を肌で感じる事ができ、大きな刺激を受けました。この貴重な経験ができたことから、目標を決めて努力し挑戦し続けることの大切さを改めて感じました。

日本代表で学んだことや経験をチームに還元し、YCU Eliteがより成長していけるように引き続き精進してまいります。今後ともご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

■管弦楽団

管弦楽団 尾崎 温弘

1969年に前身の室内楽研究会から管弦楽団へと名を改め、50年にわたって本格的な演奏活動を行っている、歴史のある学生団体です。冬の定期演奏会、春のSpring Concertを成功させるべく、日々の練習に励んでいます。また学内式典や学園祭出演のほか、地域の方から演奏の依頼を頂くこともあり、その活動内容は多岐にわたります。新型コロナウイルス感染症の影響により、春の演奏会が中止になるなど活動の縮小を余儀なくされていましたが、行動制限の緩和に伴い徐々に以前同様の活動が可能になってきました。昨年12月には、ミュゼ川崎シンフォニーホールにて第53回定期演奏会を開催し、637人の方々にご来場いただきました。



管弦楽団では楽器のメンテナンスや演奏会の開催費のほか、プロ奏者の方を講師としてお招きすることもあり、非常に金銭的負担の大きい部活動です。私たちが日頃よりこのような活動を行うことができているのは後援会の皆さまによる多大なご支援のおかげです。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

■卓球部

卓球部 阿部 琢百



卓球は年齢、性別、障がいの有無に関係なく、全ての人々が同じ舞台上で試合を行うことのできるスポーツですが、それに最も打ち込める時期はやはり大学生の時でしょう。横浜市立大学卓球部は今年度、新たに未経験者や留学生を含む20人の部員を仲間を迎えました。また、医学部卓球部との交流も盛んで、1年生から6年生まで幅広い学年の部員が国籍や性別、経験年数を問わず日々切磋琢磨しております。先日行われた私たちが一番重きをおく大会である関東学生リーグにおいては日頃の練習の成果を発揮

し、女子チームが6年ぶりに4部昇格を果たしたことで、コロナ禍からの完全復活を名実ともに果たしました。

私たちが卓球に人生で一番熱中できているのは、後援会の皆さまのご支援のおかげであることを、部員の増加に加え物価上昇が進む今日、より一層強く感じております。皆さまへの感謝の思いを胸に、これからも仲間と切磋琢磨しながら精進してまいります。末筆ではございますが、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。

『YCU ボランティア・スタートアップ補助金』制度

当制度は、学生団体がボランティアや社会・地域貢献活動を始めるときの支援として、令和2年度から開始し、後援会から補助金をいただいて交付しています。

社会課題に取り組むことを通して、学生の自主自律の精神を育成し、社会と大学を活性化することを目的としています。

■令和4年度 採択団体 Clover「海洋環境改善プロジェクト」

国際教養学部 2年 西村 桃香

学生団体 Clover（シーラバー）は、SDGs14「海の豊かさを守ろう」の目標を掲げ、海洋問題の解決を目指して令和4年度の夏から活動を開始いたしました。本団体は環境問題に関心を持つさまざまな学部・学年のメンバーで構成されており、多様な視点から課題に向かっています。

団体創立当初から株式会社シードの「BLUE SEED PROJECT（※1）」に協力し、校内で使い捨てコンタクトレンズ空ケース（プリスター）の回収・発送作業を行っています。また、より多く集めるための工夫を考え、毎月3000個以上のプリスターを集めることに成功しています。

集めたプリスターは株式会社シードに発送後、需要が高まっている物流パレットなどの再資源化の材料として業者に買い取ってもらいます。その収益は、海洋ごみ問題解決に向けて活動している団体に全額寄附されています。

2022年12月に行った野島海岸ビーチクリーン活動では、Cloverメンバー以外の学生とも協力して海岸のゴミを清掃しました。また、審査員特別賞を受賞した「横浜アクションアワード2023」（※2）への参加や浜大祭の出展を通して地域の方々との繋がりを築きながら、参加者と共に課題に向き合いました。

このような私たちの活動は、多くの方々の支えがあり成り立っています。今後も学び続けながら海洋問題の解決に向けて真摯に取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（※1）「BLUE SEED PROJECT」<https://www.seed.co.jp/blueseeds/>

（※2）「横浜アクションアワード」<http://action-awards.yokohama/>

若者と地域のNPOや団体がパートナーシップを組んで活動している事例を多くの方に知ってもらい、広げていくためのアワード。



キャリア・就職支援の主な取り組み



就職活動関連図書

令和5年度は、就職ガイダンスをはじめ、各種イベントの対面開催を復活しました。学生たちは、イベント参加に加え、キャリア支援センターに実際に足を運び、図書貸出、OBOG 情報検索、キャリアカウンセラーへの相談などさまざまな支援メニューを利用しています。

詳細 <https://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~kouenkai/assist/career/index.html>



令和5年度 就職ガイダンス

インターンシップ

夏季や春季などの長期休暇を利用し、企業や官公庁など幅広い分野で一定期間、就業体験を行う制度です。学生は、自らの専攻や将来のキャリアと関連したインターンシップに参加することで、将来の方向性を見極めるヒントを得ることができます。海外インターンシッププログラムも例年実施しており、渡航を伴うプログラムに関しては、必要な条件を満たした場合、渡航地域に応じて後援会から助成金が支給されます。コロナ禍ではオンライン形式で実施していましたが、2023年春から、渡航を伴うプログラムを再開し、2023年はオーストラリア、ベトナム、マレーシアで就業体験が実施されました。

https://www.yokohama-cu.ac.jp/career_dev/career/internship.html



海外インターンシップ体験談



実習先：Lucky You Found Me (オーストラリア・シドニー) 国際教養学部 3年 折田 実祐

私は、英語を使用しながら実際に海外で働くことイメージを掴むため、キャリア支援センターで紹介されたサポート型プログラムの中から、オーストラリアの地元企業でのインターンシップへの参加を決めました。受入先企業は求職者の方と企業をマッチングさせる人材会社で、主な業務内容は、書類作成や面談対応の補助でした。当初は英語での連絡調整や慣れない仕事に苦戦したものの、会社の方に支えていただきながら、全うすることができました。オーストラリアは、

世界中の国の人が集まった多民族国家であり、一人ひとりが多様なバックグラウンドを持っているように感じました。日本人として生まれ、これまでのほとんどの時間を日本で過ごした私にとって、多種多様な素敵な人々に出会ったこの経験は、非常に刺激的で心が躍りました。また、自分の考え方が柔軟になり、将来や生き方について真剣に考えるきっかけとなる、とても貴重な経験をさせていただきました。ご支援していただいた後援会の皆さまには、深く感謝いたします。今後も、自分の思い描く未来に向かって頑張っていきたいと思います。



就職体験参加者同士の交流会

ご存知ですか？

インターンシップのルールが変わりました! (三省合意改正)

文部科学省・経済産業省・厚生労働省の三省により、一定要件を満たしたプログラムのみ「インターンシップ」と位置付けるよう見直され、**インターンシップのルールが変更されました**。新たなルールでは、企業はインターンシップで得た学生情報を採用活動へ利用することが可能となっています。

一定要件：5日間以上、学部3・4年ないしは修士1・2年の長期休暇に実施すること、就業体験や、受入れ先の社員によるフィードバックを必ず行う など



詳しくはこちら→ https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/sangaku2/20230920-app_ope02-1.pdf
(文部科学省ホームページ「大学等におけるインターンシップの推進」)

卒業生進路

令和4（2022）年度は、国際総合科学部再編後、国際教養学部、国際商学部、理学部の3学部より第1期生が、データサイエンス学部より第2期生が卒業しました。令和4年度の就職率※は98.7%で、全国平均を1.4ポイント上回る結果となりました。

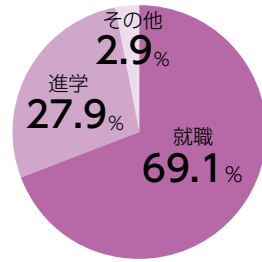
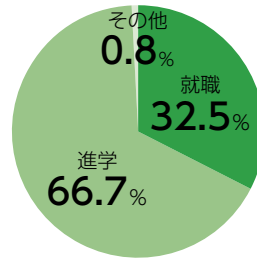
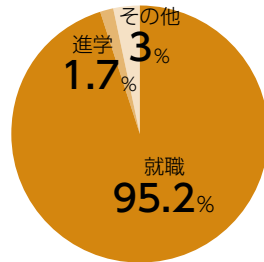
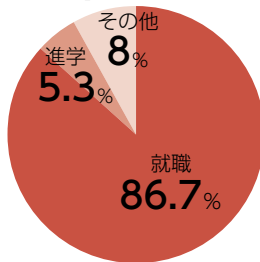
横浜市役所をはじめ、これまでの特徴、強みでもある公務員や社会ニーズの高い、幅広い業界・業種への就職の他、起業家も輩出しています。

■卒業生就職実績（2023年3月卒業）

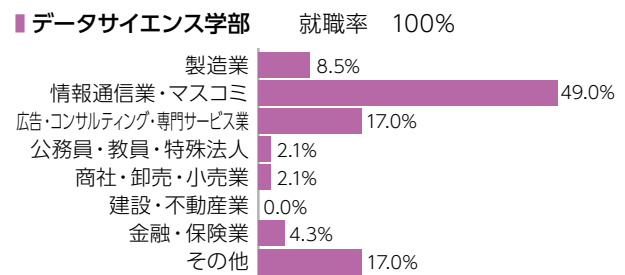
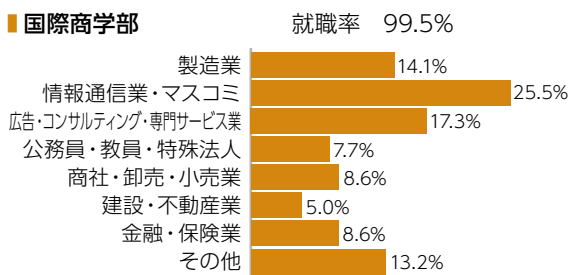
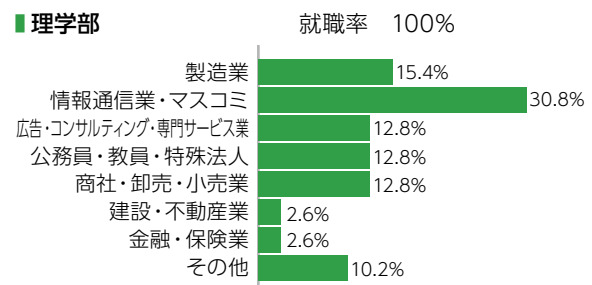
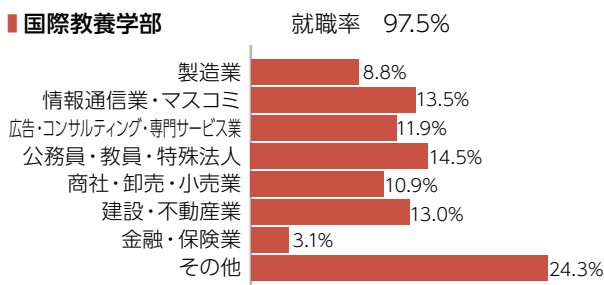
※就職率=就職者数÷就職希望者数

国際教養学部				国際商学部				理学部				データサイエンス学部			
就職率	97.5%			就職率	99.5%			就職率	100%			就職率	100%		
進路	就職	進学	その他	進路	就職	進学	その他	進路	就職	進学	その他	進路	就職	進学	その他
人数	195	12	18	人数	220	4	7	人数	40	82	1	人数	47	19	2

[進路内訳]小数点以下第2位を四捨五入



■業種別就職先



■卒業生の進路データ詳細 https://www.yokohama-cu.ac.jp/career_dev/career/shinrodata.html



キャリア支援の取り組み「キャリアサポーターと学生の集い」

2023年10月15日(日)に、学生の就職活動やキャリア形成を支援する卒業生(キャリアサポーター)と在学生が交流を図る「キャリアサポーターと学生の集い」を開催しました。今年は4年ぶりに対面で、みなとみらいサテライトキャンパスで初開催し、32人の卒業生と33人の在学生、合計65人が集いました。多様な業種、職種、年代のキャリアサポーターから、社会人のリアルな声を聴くことで、学生は今後のキャリアや働くことを想起する貴重なきっかけを得ることができました。



みなとみらいサテライトキャンパス

2023年 3月卒業式・4月入学式

2023年 3月卒業式

2023年3月24日(金)に令和4年度卒業式が開催されました。感染防止対策を施し、保護者も会場である体育館で参加して、3年ぶりに新型コロナウイルス感染症拡大前の形式での卒業式となりました。

令和4年度の学部卒業生は966名、博士前期課程および修士課程修了者175名、博士後期課程および博士課程修了者59名、合計1,200名が卒業されました。

在校生代表送辞は、医学部医学科5年 須山 隼さん、卒業生代表答辞は、国際商学部 松井 悠花さんが行いました。

横浜市立大学管弦楽団の演奏により入退場が行われ、本学の混声合唱団より卒業生の皆さんに歌「春」が送られました。

(ご参考) https://www.yokohama-cu.ac.jp/news/2022/r4g_ceremony.html



新型コロナウイルス感染症の影響により卒業式祝賀会に替えて、卒業生へ記念品をお渡ししました。

2023年 4月入学式



2023年4月5日(水)に令和5年度入学式を開催しました。

感染対策を講じたうえで、保護者の参列も可能とし、コロナ禍前に近い2500人が参加されました。新入生代表宣誓は、理学部 多賀 千尋さんが行いました。

横浜市立大学管弦楽団の演奏で開式し、本学の混声合唱団より歓迎の歌「君のそばで会おう」が新入生に送られました。

(ご参考) https://www.yokohama-cu.ac.jp/news/r5e_ceremony.html



式辞を述べる相原学長



令和5年度新入生に向けてお祝いの言葉を述べる山中竹春横浜市長

横浜市立大学後援会会則

- (名称)
第1条 本会は、横浜市立大学後援会と称する。
(事務局)
- 第2条 本会は、事務局を横浜市立大学金沢八景キャンパス内に置く。
(目的)
- 第3条 本会は、横浜市立大学の教育研究事業及び学生生活の支援等を行うことを目的とする。
(事業)
- 第4条 本会は、前条に定める目的を達成するため、次の事業を行う。
(1) 学生の教育研究活動への支援
(2) 学生の学業、課外活動及び福利厚生事業に対する助成
(3) 学生の国際交流事業に対する支援
(4) 学生教育に関する講演会・研究会等の開催
(5) その他目的達成に必要と認められる事業
(会員)
- 第5条 本会は、次の会員をもって構成する。
(1) 横浜市立大学に在学する学生（医学部2年次以上及び医学研究科を除く。）の保護者又は学生本人（以下「1号会員」という。）
(2) 横浜市立大学の教職員及びその退職者で本会の事業を支援する者（以下「2号会員」という。）
(3) その他本会の事業を賛助する者（以下「3号会員」という。）
(役員設置)
- 第6条 本会に、次の役員を置く。
(1) 理事 15名以上20名以内
(2) 監事 2名以内
2 理事のうち1名を会長、1名を副会長とする。
3 理事のうち2名を業務執行理事とする。
(役職者の選出)
- 第7条 前条に定める役員のうち、会長、副会長、業務執行理事は、理事の互選により選出する。
(役員任期)
- 第8条 役員任期は2年とし、再任を妨げない。
(役員任務)
- 第9条 役員任務は、次のとおりとする。
(1) 会長は、本会を代表し、業務を総理する。
(2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
(3) 業務執行理事は、本会の業務を処理する。
(4) 監事は、本会の業務及び会計を監査する。
(顧問)
- 第10条 本会は、横浜市立大学との連携を密にするため、顧問を若干名置くことができる。
2 顧問は、理事会の承認を得て会長が委嘱する。
3 顧問は、会長の諮問に応じるとともに、会長の求めにより理事会に出席して意見を述べることができる。
(職員)
- 第11条 本会の事務を処理するために、事務局に職員を置く。
2 職員は、理事会の承認を得て会長が委嘱し、有給とする。
(会議等)
- 第12条 本会の会議は、総会及び理事会とする。
2 総会及び理事会の議長は、会長がこれにあたる。
(総会の決議事項)
- 第13条 総会は、年1回開催し、次の事項について決議する。
(1) 役員選任
(2) 事業報告及び決算の承認
(3) 会則の改正
(4) その他本会の運営に関し必要と認められる事項
2 会長は、必要と認めるときは、臨時総会を開催することができる。
3 総会は、出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合は議長が決定する。
(理事会)
- 第14条 理事会は、理事全員をもって構成する。
2 監事は、理事会に出席し、意見を述べる。
(理事会の決議事項)
- 第15条 理事会は、事業計画、予算、決算及びその他本会の運営に必要な事項について決議する。
2 理事会は、理事の半数以上の出席で成立する。ただし、出席できない場合は、委任状をもってこれに代えることができる。
3 理事会の議事は、出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合は議長が決定する。
(会計)
- 第16条 本会の経費は、会費、寄附金及びその他の収入をもってこれにあてる。
(会費)
- 第17条 本会の1号会員は、入学時に会費を納入することとし、既納の会費は返還しない。
2 会費の額は、次のとおりとする。
(1) 学部においては学生1名につき、50,000円（ただし、医学部1年次生については15,000円）
(2) 大学院博士前期課程及び博士後期課程においては院生1名につき30,000円（ただし、博士前期課程から博士後期課程に進学した者にあつては20,000円）
3 2号会員及び3号会員については、会費の納入を要せず、随時、本会の事業を支援、賛助するための寄附に努めるものとする。
(会計年度)
- 第18条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
(会則改正)
- 第19条 この会則の改正は、総会で行う。
2 改正を議決するには、出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。
- 附則
本会則は、平成17年4月1日から施行する。
2 平成17年4月1日現在、会員である学生の保護者は、当該学生が卒業するまでの間は、会員とする。
- 附則
本会則は、平成19年6月2日から施行する。
- 附則
本会則は、平成22年6月26日から施行する。
- 附則
本会則は、平成26年7月5日から施行する。
- 附則
本会則は、平成29年7月1日から施行する。
- 附則
本会則は、令和元年7月6日から施行する。
- 附則
本会則は、令和3年8月10日から施行する。

横浜市立大学後援会事務局

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2 横浜市立大学内
TEL : 045-787-2397 e-mail : kouenkai@yokohama-cu.ac.jp
Http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~kouenkai/



本誌は当会ホームページよりダウンロードできます。